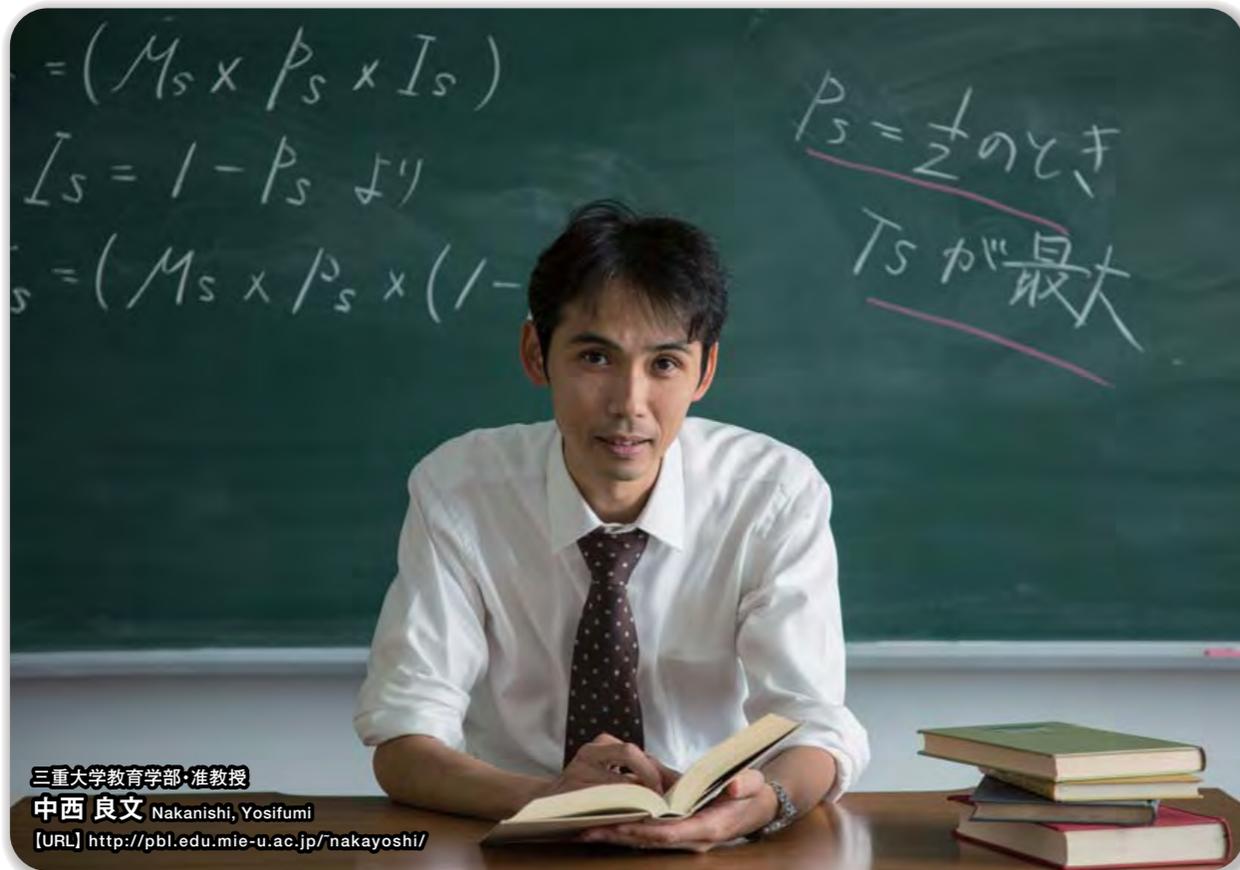


特集 おもしろ研究・先生 IX

心理学でモチベーションアップ?! 学びを楽しめる大人へ

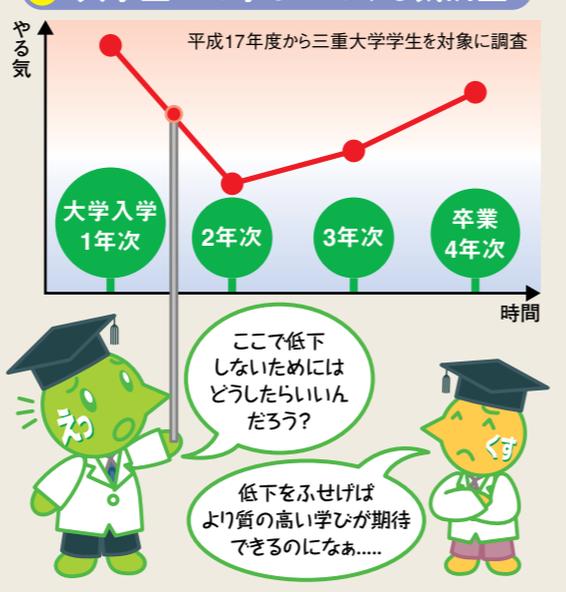


三重大学教育学部・准教授 中西 良文 Nakanishi, Yosifumi [URL] http://pbl.edu.mie-u.ac.jp/nakayoshi/

学ぶことはなぜ楽しいのか?

学ぶことが楽しいなんておかしい、と思う人も多いかもしれませんが、大学には学ぶ楽しさに取り憑かれた人が沢山います。「学ぶこと」で、知らなかったことを知ることができる面白さに触られます。また、学んだことを生活に役立たせることもできます。さらに、知識やできることが増えることで、「自分はできるんだ」という自信にもつながります。そして、学ぶことを通して、人とつながることもできます。学ぶことには、こんなにも楽しい要素が詰まっているのです。しかし、一方で学ぶことにやる気を持ってない人がいるのも事実です。では、学びへのやる気はどのように高めればよいのでしょうか。

大学生への学びへのやる気調査



学びへのやる気 =モチベーションの構造を知る

それを知るには、学びへのやる気=モチベーションの構造を知ることが手になりになるかもしれません。古くから、モチベーションは「できる」という感覚である「期待」と、それを行う価値づけである「価値」の掛け合わせによって決まるという「期待×価値」理論において説明がなされてきました。これについて三重大学の全学生を対象に経年的に調査を行った結果(図1)から私たちは、大学入学時への働きかけとして、「4つのカスタートアップセミナー」※1を開設しました。また、三重大学では問題解決やプロジェクト達成を基に学びを進めていくPBL (Problem/Project-Based Learning)※2を展開していますが、このような学習によって、学ぶことへの価値づけが高まるとともに、望ましいやり方で学習が進められることが分かっています。

※1: 三重大学の教育目標「4つの力」:「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」をどうすれば身につけることができるのかを学ぶ授業。 ※2: 現実的な問題解決やプロジェクトを通して学ぶ方法。

学びを楽しめる「大人」を育てる

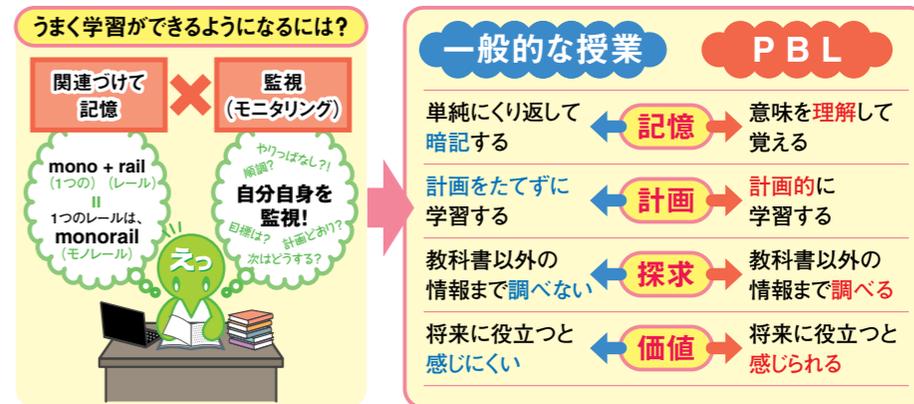
近年、学力低下の議論が盛んに行われています。しかし、「子ども」の学力については、2009年のPISA調査※で、調査対象となった約60の国と地域のうち、日本の順位は10位以内です。一方、学力低下の議論が始まりかけた1990年から2000年頃の時点で既に、「大人」の学力は、国際比較調査において最下位に近い結果が出ています。この調査では、大人の学習へのやる気も調べられていますが、同じく世界最下位レベルです。このことから、本当に「学力低下」の議論をしないといけないのは、「大人」に対してなのです。しかし、社会に出てしまった後の「大人」に対して教育をするのは、大変なことです。ですから、まさに社会に出ようとしている大人である「大学生」に質の高い教育を行うことが重要で、うまく学びを楽しむには、大学生にとって意味のある学びを展開しなければなりません。

※PISA: OECDによる国際的な生徒の学習到達度調査

これまでの研究から分かったこと



PBLの手法を用いた場合の学習効果



大人の学力調査結果

